

楽しみながら基礎的技術の高まりをめざす被服科の指導

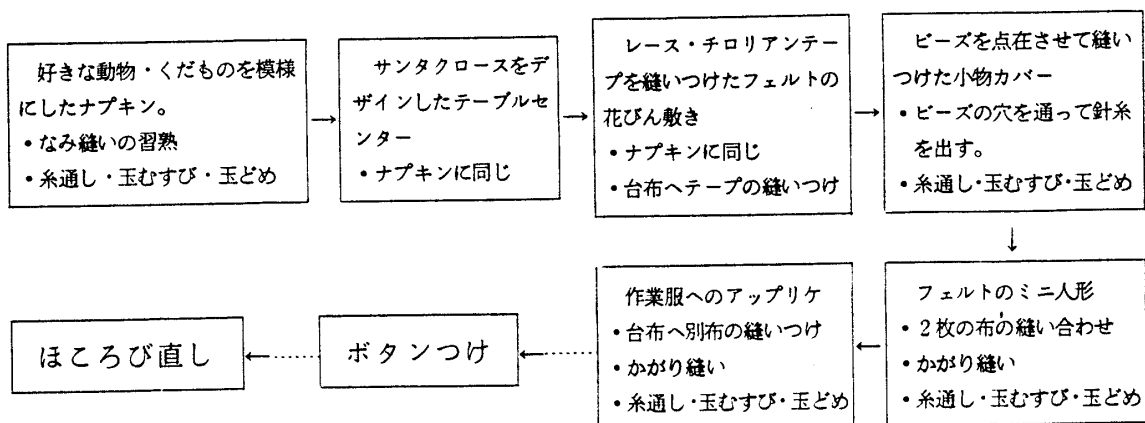
1 被服科の基本的立場

もっとも基礎とされるなみ縫いも、それができるためには針穴への糸通し・玉むすび・玉どめなど、かなり習得が困難な技能が要求される。年度当初、針穴に糸が通って、玉むすびができた生徒は、11名中僅か1名であった。

中学部における被服科では、「せめて自分で簡単なボタンつけや小さなほころびを処理する」ことをめざしているが、そのための基礎訓練が、単なるトレーニングの繰り返しで子どもたちの興味・関心を失い、意欲をそぐことのないよう留意した。

そこで、模様の縫いとりを中心に取り組むなかで、徐々にボタンつけやほころびの処理のために必要な技能を身につけさせていこうと考えた。

次の表は、題材の流れと技能的なねらいを示したものである。



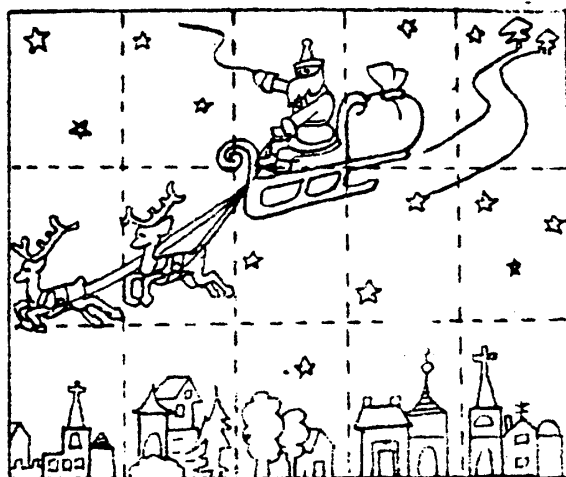
2 実践例……サンタクロースをデザインしたテーブルセンター（共同製作）

本題材は、比較的初歩の段階で、模様の縫いとりを通してなみ縫いの習熟・糸通し・玉むすび・玉どめの練習をねらいとするものである。下図のように楽しい絵模様をすること、点線で示すように15枚に分けてそれぞれが分担して共同製作とすること、そして中学部のクリスマス会で会場を飾る目的をもつこと、によって

(ア) なみ縫い・糸通し・玉むすび・玉どめに意欲的に取り組むことができる。

(イ) クリスマスに向けて共同でつくり、使うことで、喜びや満足感を充分味わうことができる。

と考えたわけである。



前のナプキンの製作では、技能的なものは最初の1名を除いて困難であったが、興味・関心は少しずつ高まり、意欲的な取り組みがみられた。

(1) 学習の流れと意図・留意点

(1) 共同製作を意識する。	(1) 15枚の西洋紙に描いた絵をパズル式に並べ、絵の内容を意識させ、行事との関連で興味関心を高める。
(2) 製作箇所を決める。	(2) 自分の取り組みたい場面を自分で決める。2人以上かさなった所は相談する。
(3) なみ縫いをする。 糸通し・玉むすび・玉どめ	(3) 子どもの作業意欲を欠かないよう、最初だけは糸の通った針を準備し、なみ縫いに入る。 ・模様の線に濃淡をつけ、作業がしやすいように援助する。 ・糸通し・玉むすび・玉どめは、個々の能力に応じ、無理をしないようにする。
(4) 作品の鑑賞	(4) 作品を並べながら次第に完成するようすをみせる。

(2) 本実践における子どもの反応と考察

- (ア) 学部行事と結びつけた題材を選んだこと、紙パズルによる導入は、興味・関心の発生に役立ち、「やろう」という意欲をかきたてた。
- (イ) 前時製作のナプキンの提示だけで作業内容を知り、直ちになみ縫いに取り組むことができた。
- (ウ) 次第に絵が浮きぼりになっていく過程がよくわかり、興味・関心・意欲の持続に効果的な材料だった。
- (エ) 時間中に自分の作品を完成させた生徒は1名であったが、共同製作ということもあって放課後も自主的に取り組み、完成への努力がほとんどの生徒に見られた。
- (オ) 糸通し・玉むすび・玉どめは、個人差が大きくなったが、過度に集中的に取り組まないよう配慮したことは、意欲を持続させる上で大切なことだったと思う。
- (カ) 黒地に白糸ではっきりわかることが、効果的だった。
- (キ) クリスマス会の雰囲気づくりに効果的で人気を博し、生徒の満足感にもつながったと思う。
- (ク) 現段階での生徒の技能習得状況は次の通りである。(最初→現段階)

	A.T	K.T	Y.W	A.K	Y.I	Y.T	T.Y	Y.A	H.T	S.T	K.M
なみ縫い	×→○	×→○	×→○	○→○	○→○	○→○	×→○	×→○	○→◎	◎→◎	○→○
糸通し	○→○	×→×	○→○	○→◎	×→○	○→◎	×→×	×→○	○→◎	○→◎	○→◎
玉むすび	×→○	×→×	×→×	○→○	×→×	×→○	×→○	×→○	×→○	○→◎	×→○
玉どめ	×→○	×→×	×→×	×→○	×→×	×→○	×→×	×→×	×→○	×→○	×→○

(3) 終わりに

技能の高まりは遅々としたものであったが、少しずつ針や糸をもつことへの関心につながっていき、家庭生活の中で生かそうとする者も現われ始めた。このことは今後期待できることだと思っている。最後に、生活ノートによる親からの連絡を一例だけ紹介する。

やおけていたお父さんのステテコを見つけて縫ってくれました。おしりのあたり 10cm位あまり糸がヒラヒラしていました。クッションやフトンなど少しでもほころびているとすぐ縫っています。

(岸本陽子)